

常勤特別職として政策統括官

副村長空席のままに質問

小林村長 副村長は来春3月提案

午前九時五十九分開会。提出議案に対する総括質疑を行い、令和元年度一般会計補正予算など十八件を所管の委員会に付託した。十時四十三分散会。散会後、競輪特別委員会を開いた。十一日は休会。十二日は総務文教、厚生産業の両常任委員会を開く。

弥彦村6月定例会

3日目
6月10日

提出議案は令和元年度補正予算三件、条例の制定・一部改正六件、専決処分八件、契約の締結一件。

政策統括官の設置に關する条例の制定は、条例に基づく非常勤特別職の政策統括官を常勤特別職として条例で定めるものとして、四月一日から山岸喜一前総務課長が務めていた。

具体的には競輪事業の個別外部監査などを担当してもらうとした。それに対して、板倉氏は「重要な案件と聞いたが、副村長という特別職がある。なぜ副村長でなく、政策統括官なのか」として、空席となっている副村長の選任について質問。

小林豊彦村長は「可決していただけという確信がない限り、提案できなかった。副村長になっていた方がいい方もいる人、否決された場合、責任の取りようがない」として、議会で副村長選任が否決される懸念があったため提案を見合わせたことを説明した。

政策統括官の設置については二期目に入って各種団体の役職に就き、会議などで役場にいないことが増えているとして「これ以上、村を空けるのでは村政が回らないと危惧して、議会に諮らずにできる役職として政策統括官を設けることにした」と説明。副村長の選任については「できれば来年三月の議会で提案をお願いしたい」と述べた。その答弁に対して、板倉氏は山岸前総務課長を副村長に選任することを提案したが、小林村長は「既に六月に入つて途中でお願いするのは難しい。三月の議会でお願したい。政策統括官については次はどうするか



副村長選任について答弁する小林村長

各種保険適用はやかわ 鍼灸・整骨院

三葉町職員 0903-26043



弥彦村6月定例会十日本会議総括質疑

のかと疑問を示した。小林村長は八月三十一日、農改センターで「弥彦村花角県民党」の設立集会を開くことを説明し、「本来なら、冷暖房がなければ避難所でない。弥彦村には一つもない。私も分かっていて、なかなかできなかった。避難施設なら起債が可能だと初めて知って、それなら知事も来るし、国から大臣経験者も来る」と聞いているので、まずやってみようと思った。それから弥彦体育館、ヤホール、サンビレッジ弥彦と順次やっていきたい」と述べた。

冷暖房の効果について、丸山栄一農業振興課長は電気式のエアコン四基を設置し、風の流れを一定にして、早い時間で冷暖房できるように設計しているとした。

専決処分の三十一年度一般会計補正予算では、板倉氏はホールは天井が高く、主に体育館として使用されていることを指摘し、「そこに冷暖房を設置すると、一定温度まで上げ下げするのにかかる時間は時間と経費がかかる。本当に必要があるのか」と疑問を示した。社（LCC）を利用する関西圏の観光客を対象に新潟空港から弥彦、岩室へのタクシー料金を補助するもの。

実績について、高橋信弘観光商工課長は、弥彦・岩室が二十五便、三十八人、村上市瀬波温泉が三百六十一便、百三十八人、新発田市月岡温泉が二百九十四便、七百四十八人、佐渡市が二千九百二十便、五千六十人と報告。

一便当たりでは、弥彦から岩室は一・四四人、瀬波温泉は〇・三八人、佐渡市は一・七三人、月岡温泉は二・五四人として、小型タクシーを利用するため一便当たりの費用対効果は悪くないかなと思つた。

PRでは伊丹空港と関西国際空港にブースを設けてPRを行ったほか、有名プロガーを招いてのSNSを利用したPRを展開したことを説明し、「今年度に入つて二か月ちよつとだが、予約を含めて二十七便と昨年度を超えている。七月から復路の運行も開始するので、かなりの便数は伸びる」と期待しているとした。

は考えていない」と述べに指定されているため、することにどめた。

専決処分の三十一年度一般会計補正予算では、農村環境改善センターのエアコン設置工費一千六百七十一千円について小態正氏（無所属）が質問。

志田総務課長は農村環境改善センターが避難所